



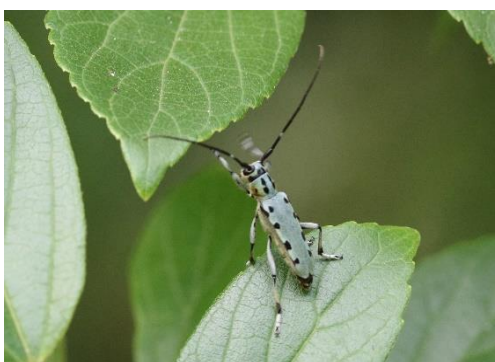
愛川ふれあいの村 今月の風景

## 2022年7月 自然のたより

月初めは戻り梅雨のような、すっきりとしない天候が続きました。例年この時期によく見られるカメムシや様々な昆虫たちも、今年は数が少ないように感じました。中旬にかけて少しずつ暑さも増し、クヌギには樹液を求めて集まるクワガタムシやオオムラサキの姿が見られるようになりました。暑い中、虫かご片手に昆虫採集した夏休みの記憶がよみがえります。これから夏本番！虫も草木も賑やかになるふれあいの村の自然をお楽しみください。(袖山)



神奈川県のお花ヤマユリ



ヤツメカミキリ



愛嬌のあるキビタキ



オニシバリ



ナワシロイチゴ



ウツボグサ



ムラサキツバメ



アゲハ幼虫



アゲハモドキ



クロハナムグリ



飛翔ラミーカミキリ



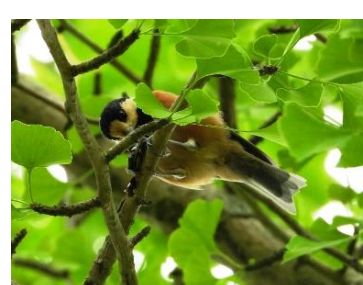
オサムシタケ冬虫夏草



リュウキュウサンショウクイ



仲良しムクドリ



食事中的ヤマガラ



## トピックス ★耳洗う★

芝生の上に座って耳を澄ましてみると、様々な生き物の音が聞こえてくる。さらに目をつぶると音がより鮮明に聞こえる。『エサを見つけたカラスの呼び声』、『耳元を横切るカナブンの羽音』、『果樹園の葉が風に震える音』、『遠くで子どもたちの遊ぶ声』。それに加えて『自分の呼吸の音』、『心臓の鳴る音』、『耳の産毛が風にそよぐ音』、『お腹が減ってグルル…』などなど挙げたらきりが無いほど、自分が色々な音に囲まれていることに気が付く。そして、ひとつ風が吹くことで、落ち葉が転がり、草木が擦れ、気流に乗って鳥が浮かび、窓を叩く。豊かな音の世界に耳を澄ますことで、ひとつひとつの事柄のすべてが関係し合い、『全体性』を持って環境が成り立っていることに気が付く。葉っぱは葉っぱだけで存在しているわけではなく、葉っぱを感じることで、種を運ぶ鳥を思い、大地にそびえる木々を感じ、大気の流れを知ることが出来るのではないかと。そんな大きなところまで気持ちが広がってしまった。自分の心持ち次第で、どんな場所においても自然の豊かさや面白さを味わうことが出来るはず。

「自然は癒される」という言葉をよく耳にするが、自然の些細な動きと、広く私たちを包む全体性を感じようとするのが、日々を瑞々しく生きるために出来ることのひとつだと思う。(井上)



## 生き物 ★オニヤンマ★

飛び方は堂々として勢いがあり、山の清流や道路の上を好んで飛び回ります。国内最大のトンボの1つで、大きな目は中央でしっかりと接してはならず、離れているか、一点で接しています。それに加えて、下唇の中央に切れ込みがあることも特徴です。また、トンボのほとんどは成熟の変化によって体色が変化しますが、オニヤンマは黒地に黄色い斑紋を持つものが多く、この体色は成熟による変化が少ないのです。

トンボは非常に古い昆虫群で、翅が残りやすい為、化石記録も多くあります。成虫も幼虫も肉食性のため大空の覇者として君臨しますが、そんなトンボにも鳥など天敵はいます。近年では、衰退の流れが著しいそうです。環境の変化や採集による減少など理由は様々ですが、中には人間が生じさせたものも多くあります。

私たちの行動がトンボを守ることに繋がっています。(柳)



## 旬 ★ヤマモモ★

みなさんは『ヤマモモ』を食べたことがありますか？私は小さい頃、近所にあったヤマモモを食べたことがあり、酔っぱい！と叫んでしまいました。大人が食べれば甘い、と感じるのかもしれませんが、当時はとても酔っぱいと感じました。愛川ふれあいの村にもヤマモモが生えています。食べてみようと思いましたが、今年は不作なのか実が見当たりませんでした。もしかしたら村に来る野生動物たちが食べてしまったのかもしれない。いつかまたヤマモモを食べ、甘酸っぱいと叫びたいと思います。

みなさまも、ヤマモモをぜひ探してみてください。ただし、食べる時はヤマモモの持ち主の許可と酸っぱい覚悟をお忘れなく。(石川)



来月の見どころ

## ウシツラヒゲナガソウムシ

エゴノキは、昆虫や鳥に人気のある樹木です。花期の5月頃には2ヶ月ほどの白い花を枝いっぱいに付け、甘い香りに誘われたシヤコウアゲハやクマバチなどが集まります。新鮮な葉を選んだエゴツルクビオトシブミが工夫し葉を巻き揺籠を作るのもこの時期です。まだ青白いやわらかな実の頃、エゴヒゲナガソウムシが現れる。大きさはミドリシロアゲハほどですが、サポニンと言った成分を含んだ果肉に穴をあけまだ柔らかい種に産卵管を差し込み産卵する。ところどころで、エゴヒゲナガソウムシの顔を見ると牛の顔をしているように見えると思いませんか。何とも割と面白いです。それで、別名をウシツラヒゲナガソウムシと呼ぶようです。毒成分のある果肉を避け種子に産卵する術は生まれながらのものらしい。鳥にもその活動が見られる。(吉田)

